

2017年3月

れきし 歴史 — No. 14

けんぱくものしりシート

きたかみがわ しゅううん

# 北上川の舟運



しゅううん 舟運とは、ふね つか かわ もの はこ 運ぶことをいいます。れつしゃ じどうしゃ 列車や自動車がかつ なかった時代、荷物 運ぶのにふね はかせないものでした。

おぐり舟  
おぐりふね  
(小繰舟)



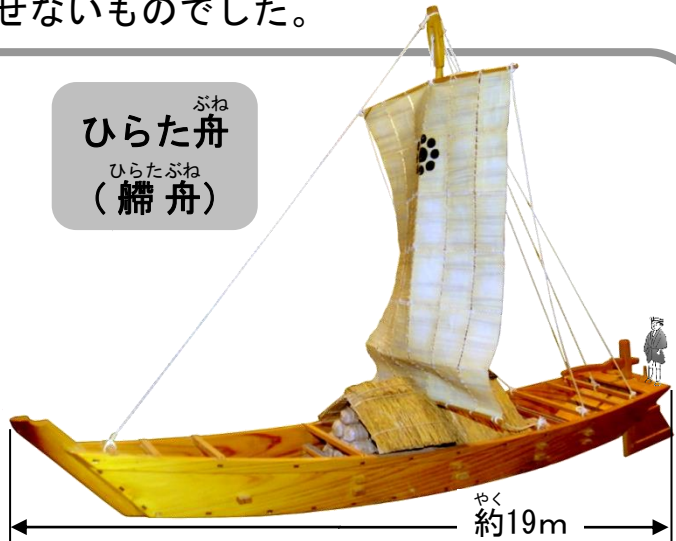
約15.4m

【積荷】米 俵 100 俵

【乗組員】船頭1 + 水主3 = 計4名

※米 俵 1 俵 … 約65kg

ひらた舟  
ひらたふね  
(髭舟)



約19m

【積荷】米 俵 350 俵

【乗組員】船頭1 + 水主4 = 計5名

※船頭…船の船長。水主…船頭以外の乗組員。

えど じだい 江戸時代 (1603~1867年)、ねん げんざい 現在の岩手県にあたる盛岡藩と仙台藩では、しゅうかく 収穫した米を江戸 (現在の東京都) に運んで売り、収入を得ていました。そのために重要な役割を果たしたのが北上川です。もりおか 黒沢尻 (北上市) 間は『おぐり舟』、くろさわじり いしのまき みやぎけん 黒沢尻・石巻 (宮城県) 間は『ひらた舟』が使われました。なが 流れがゆるやかな北上川ですが、かわふね 川舟の航行は浅瀬や岩、急流などに十分な注意を必要としました。

いしのまき えど かん 石巻・江戸間は海を行き来するため、おおがた 大型の『千石船』が使われました。

もりおはん えど おく 盛岡藩が江戸に送った米は年間6万俵ともいわれます。

せんごくふね  
千石船

【積荷】  
米 俵 2,500 俵

【乗組員】  
船頭1 + 水主14 = 計15名



約32m

もりおか くるさわじりかん きゅうりゅう  
 盛岡-黒沢尻間は急流  
 が多くて川が浅いため、  
 舟底の浅いおぐり舟が  
 使われました。



もりおかはん せんたいはん  
 盛岡藩と仙台藩の  
 境である黒沢尻には  
 河港がつけられ、  
 荷物が集積されて  
 おぐり舟よりも少し  
 大きなひらた舟に  
 積み替えられました。

かこう いしのまき  
 河口の石巻にも  
 盛岡藩の蔵や役所  
 が置かれました。

おぐり舟  
52 km

ひらた船  
148 km

千石船

北上川

黒沢尻  
(北上市)

石巻  
(宮城県)

行き 帰り

0.5日 4日

3日 10日

江戸(東京)

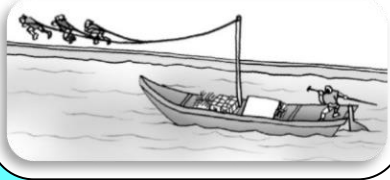
川の流れにのるんだね。

でも、川をさかのぼる  
 ときはどうした  
 んだろう？

ハクちゃん

かぜ  
 風をうまく  
 つかいました。

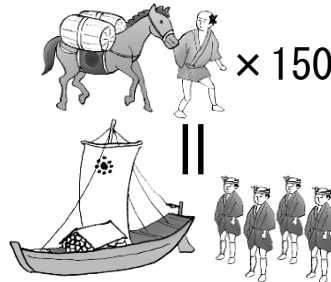
それでも進めないときは、  
 舟に綱をつけて、岸から  
 ひいて上りました。とても  
 力のいる仕事ですね。



だから帰りは  
 行きの3倍以上の  
 日数がかかって  
 いるんだね。



もし馬でひらた舟と同じ  
 量の米を運ぶとすると、  
 150頭の馬と150人の人が  
 必要になるの。それに比べると  
 ひらた舟は一隻で人は5人。  
 舟運は安い費用で大量輸送  
 することができたのです。



だから北上川の舟運は  
 明治23年に鉄道が開通  
 するまで、岩手県の物流  
 の中心だったんだ！

とても効率的  
 ですよ！

参考 『日本の船 和船編』 日本海事科学振興財団 船の科学館 1998年/  
 『南部藩の北上川舟運と黒沢尻河岸』 解説図録 北上市立博物館 2011年 他

来月(4月)の  
 けんぱくものしりシートは  
 民俗-14だよ！  
 おたのしみに！



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34  
 Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214  
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>